

研究課題名：

非小細胞肺癌に対する導入療法後切除例における病理学的評価の検討

研究対象：

1993年2月1日以降に国立がん研究センター東病院呼吸器外科・病理診断科において術前に導入療法を行って手術を行い、非小細胞肺癌と診断された方々の診療録を対象とし、導入療法を行った後に切除された肺癌の組織を評価するための情報収集を試みます。

研究の概要：

肺癌の中でも、進行した場合には一般的には手術だけでなく、抗がん剤治療や放射線治療を組み合わせる治療が行われており、導入療法（抗がん剤治療もしくは抗がん剤治療と放射線治療）を行った後に手術で切除する治療法があります。

このような治療法を行った組織を観察すると、病変にはがん細胞や線維組織や壊死組織などが認められます。その中で「がん細胞の面積」あるいは、「がん細胞の病変に対する割合」が少ない人は治療成績がよいということが報告されています。しかしながら、これらの報告は別々の研究によるもののため、どちらが治療成績を反映しているのか、もしくは同等に反映するのかわかっていません。

また、「がん細胞の面積」と「がん細胞の病変に対する割合」と「病変の面積」の相互関係についても分かっていません。

今回は面積、割合を同時に評価することで、これらの評価法を比較検討することと、相互関係を評価することを目的としています。

研究の意義：

導入療法後に切除した組織を評価することで治療成績を予測することができれば追加治療を行う判断材料になります。また、「がん細胞の面積」と「がん細胞の病変に対する割合」と「病変の面積」の相互関係を検討することでより良い評価法の確立など、今後の肺癌診療に貢献できると考えます。

目的：

がん細胞の面積、割合を評価することで、これらの評価法を比較検討することと、相互関係を評価し、どれが治療成績を予測するのかわかるとし、今後の治療方針の判断材料に役立てることを目的としています。また、がん細胞の面積・割合、病変の面積の相互関係を検討することでより良い評価法の確立に

つながることも考えられます。

方法：

1993年2月～2013年12月に国立がん研究センター東病院呼吸器外科で導入療法後に切除され、先端医療開発センター 臨床腫瘍病理部で非小細胞肺癌と診断された患者さんと、2015年1月～11月に国立がん研究センター東病院呼吸器外科で切除され、先端医療開発センター 臨床腫瘍病理部で非小細胞肺癌と診断された患者さんの診療録より情報収集を行い、切除された病変の組織と、免疫染色と呼ばれる検査を行った後の組織からがん細胞の面積や割合、病変の面積を測定し検討します。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。患者さんの個人情報は、研究責任者以外識別できないように、匿名化します。匿名化された臨床病理学的情報に関する情報の同定はカルテ番号を用いて行います。個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

TEL：04-7133-1111、FAX：04-7131-4724

研究責任者：

国立がん研究センター東病院先端医療開発センター

国立がん研究センター東病院 病理診断科 ユニット長 石井源一郎

研究事務局：

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 後藤 真輝